

## アジアの中の日本

2014年9月25日

福田康夫

皆様、こんにちは。武部先生が主催しておられます東亜総研が大変活発に活動されていらっしゃるようでございまして、私も心からうれしく思っております。アジアを対象に、アジアと一緒にやっという意気込みでやっておられます。アジア全体を俯瞰していろいろな活動をされる、そういう団体は実はあまりないのです。そういう意味において、大変貴重なご発想をされていらっしゃると思っております。本日はモンゴル、インドネシア、ベトナムから国を代表される方がお出でになっていますが、そういう広がりのある会で、そういう活動に対して私も心から敬意を表したいと思っております。

### 私の仕事は球拾い

私が今は何をしているのかというと、「球拾い」です。球拾いというのは、誰かに命令されてやるものではありません。そうではなくて、ボールが転がってきて、それがフィールドの外に出るものを自発的に拾う、そういう仕事をしています。本来の仕事は政府や現役政治家がやりますが、そういう人がやらないこと、見落としたこと、フィールドの外に出たボールを拾うことが私の仕事です。武部先生もそれをやってくれているのですね。同じフィールドで、我々は一生懸命球拾いしています。しかしときには、そういうことが大事なこともあると思っております。実際は、そういう球拾いがあるから、現役の政治家も政府も仕事が順調に行くのだと思います。とても大事な仕事をしているということ、まず申し上げたいと思います。

### インドネシア大統領最後の訪日

今日はインドネシアのユスロン大使もお出でですが、私はジョコウィド次期大統領指名者に先々週、敬意を表しにジャカルタでお会いしました。2014年10月20日に正式に大統領に就任されます。

ユドヨノ現大統領は現在、国連総会に行かれていらっしゃいますが、その帰りに日本に立ち寄られるというのです。私はちょうど10年前、そのときも球拾いのような場所にいましたが、ユドヨノ現大統領の就任式に出席し、初めて大統領とお会いしました。それ以来

親しくお付き合いさせていただきましたが、私にとっても大変良い経験でした。ユドヨノ現大統領は、自分の国のことはもちろんのこと、対日関係もしっかりやってくくださった、と思っています。もちろん他の国々、ベトナムもそう、モンゴルもそう、皆さん日本に対しては熱い気持ちを持ってやってくさっていることに心から御礼を申し上げます。今週末、ユドヨノ現大統領がお出でになって、京都で学位授与式に出席されるということで、私も立ち会おうと思っております。これがおそらく現大統領としての最後の訪日になると思いますので、最初の就任式でお会いして最後の訪日時にお見送りするという役割を担うことができたことを、私は大変幸せに思っております。

### **大事なアジアとのお付き合い**

アジアの国々とは大変良い関係を築いていますが、この関係をさらに強化していきたいと思っています。強化するというのは、ただ単に経済力をつけるという話だけではなくて、お互いに理解し上昇しようとする気持ちをもって、協力するのが大事です。そういう気持ちを込めてお付き合いさせていただきたいと思っています。

何にしろ、アジアの国々は、日本にとって本当に大事な国だと思います。万一、こういう国々と仲良くできないようなことが起これば、これは日本にとって大変な損失だと思います。日本にとっては隣国の中国も韓国も、もちろん大事です。そして、そのさらに隣のモンゴルとの関係も大事ですし、もちろんうまくやっていかなければならない。

### **世界の成長センター**

アジアの国がこれからどうなっていくのかということをお願いしますと、まず第一に、まさに発展する、成長センターとしてのアジアです。将来は、アジア地域は西欧よりもGDPが大きくなると言われていています。人口はほとんど同じになりました。これから経済力もアジアのほうが大きくなるかもしれないと学者は言っていますが、実際はまだだと思います。

要するに、成長センターがこれからどうなるのか、です。

### **歳をとるアジア**

一つ申しますと、アジアは高齢化して行く地域だということです。高齢化先進国の日本や韓国は他のアジアの国々が追い付かないくらいのスピードで高齢化しています。では他

の国は高齢化しないのかということ、そういうわけではないのです。今アジアの国々でも、経済が発展すると人口が都市に集まってくる。それと同時に、学歴もだんだん上がってくる。すると何が起こるかということ、子供を作らなくなってしまうのですね。要するに、都市化、少子化・高齢化という連動がおそらくアジアの方々の地域で起こってくると思います。インドネシアのジャカルタでもそうでしょう。そういう現象は、何も日本や韓国だけではありません。要するに「歳をとるアジア」、今人口的に言えば、インドや中国のように、まだ増えているアジアの地域はあります。しかし、いずれ5年から10年すると、少子化、高齢化、人口減ということも起こりうる状況です。それは、日本や韓国で起こっていることと同じです。バングラデシュはまだまだ勢いよく人口が伸びているが、遞減を始めています。アジア全体では、15年から20年先になれば、おそらく人口が増えなくなってくるのではないのでしょうか。将来16億になるインドにしても、それがさらに増えていくのはちょっと考えられません。問題は、そういう人口を支える経済が本当に出現するかどうか、私は非常に疑問に思います。

### 一人っ子政策は歴史的転換

中国も、30年前に一人っ子政策を始めました。これは強制的に1人にしたのです。大変な決断で、他の国ではとてもできないことを中国は実行したということです。まさに文化大革命に匹敵するぐらいの歴史的な出来事であったと思います。今人口が減ってくると、日本と同じように高齢化して、経済が困るのではないかと心配して、少し緩めようではないかという動きもあると聞いていますが、世界全体のことを考えれば、そんなにどんどん増やすわけにはいかないです。

### アフリカで増える人口

今世界の人口は約70億人ですが、2100年には100億人に達すると言われていています。この前、国連の発表だと思えますけど、2100年に123、4億人になるとありました。これはえらいことです。今の人口の倍近くになっていくということ、それほどこの国で増えるのかということ、アフリカなのです。アフリカは今13億人と言われてはいますが、70億人のうちの13億人ですから、世界ではまだ大した割合ではないですね。しかし、これから増えるところがアフリカだけだとすると、仮に2100年に100億人だとしても、アフリカで今の13億人が40億人になるということです。アフリカにその人口を将来支えるだけの経

済力が付くのかどうか。幸いにして、アフリカには資源がありますので、資源を使って経済を伸ばしていくということは考えられるかもしれませんが。しかし、今の人口の3倍にしてしまうということを、この80年ちょっとの間にやるということになりますと、経済がうまく順調に発展していってくればよいですけども、しかしそれは別の面で制約があるでしょう。40億人に増えた人たちの生活レベルが上がって人口が増えるというわけですから、エネルギー、資源をずいぶん使うでしょうね。そういうエネルギー資源を果たして調達できるかどうか、これはアフリカだけではない人類全体の問題です。これからの問題には、そういうことがあるのだと思います。

### 環境・資源をどうする

今ですら、エネルギーの調達にはずいぶん苦勞しています。幸いにして、まだまだいろいろなエネルギー源があるということですが、地中から出てくるエネルギーにはシェールガスもありますけれども、CO<sub>2</sub>が出てくるのですね。CO<sub>2</sub>が出てくるというのは、環境問題につながってしまうということです。既に相当悪化している環境をこれから更に悪化させるという方向で、エネルギーを無限に使っていいのかどうかという問題があります。

それから、資源もそうですね。鉄鉱石をはじめ、あらゆる資源についても経済成長と人口増というものに対応できるかどうかという問題があります。これはまだ深刻な問題になっていませんから、のんびりしていますけれども、10年、20年経てば、そのことは大変大きな課題になってくるでしょう。その前に、環境問題というものは厳然として顕在化しているわけです。しかし、これは一国でどうこうできず、また他の国も頑張らなければどうしようもない。ずいぶん議論していますけれども、国際間で合意が得られないということです。しかし、何かしなければいけないということだけは変わっていません。

### 日本は人口減で貢献

そういうことを考えますと、人口を増やさないとということも一つの有力な知恵だと思います。むしろ、日本のように人口が減ることになれば、世界に相当貢献することになるかもしれないということですね。ですから、私は人口が日本で減ることについて、全てマイナスとは考えていない。問題は、人口が減るという中で社会をどのように維持していくか、と同時に社会を支える経済をどうするか、このことにもっと知恵を働かせ、力を

尽くす必要があるのではないかと思います。

原子力はいろいろ問題になっておりますけれども、放射性物質、放射能被害の問題が大きな問題としてあるのですが、日本でいやというほどの経験を続けているわけです。この原子力は、放射性物質があるから原子力発電をやめようといった場合に、それに代わるエネルギーを見つけなければならない、あるいは開発しなければならない、その努力を必死になって政府も民間も取り組んでいます。しかし、なかなかよいアイデアが今のところは出てきていない、出てきても相当高いコストのものしかできないということです。だから、高いエネルギーで受け入れるのか、もしくはその環境問題のことを考えて消費を減らすということを考えるのか、ということになるわけです。消費を減らすということになれば、我々の生活の仕方を変えなければならないということになるので、これはいずれ一大転換を求められることとなります。しかし、これは成るべく早く結論を出さなければいけない問題だと思います。

### **無事故 50 年の新幹線**

間もなく、東海道新幹線が運行を始めて 50 周年になります。50 年間事故がなく、事故による死者もいないということです。50 年間、事故ゼロなのですね。これは大変な実績を上げたと思います。1 時間に 1 本ではなくて、6 分間隔になり、今や 3 分間隔にまでなったのですよ。この間新幹線に乗ったら、「1 分遅れて申し訳ありません」という車内アナウンスがありました。そのぐらい正確に、そして安全に運行しているということです。

飛行機だってそうでしょう。1985 年に日航機が墜落した大事故以来、日本では飛行機事故がありません。世界を見回しますと時々あるようですけれども、ずいぶん減ったと思います。日本では来年で事故ゼロ 30 周年です。あれほど過密に飛んでいる飛行機が無事故で 30 年間運行できているということで、次の 30 年間も無事故であってほしいですね。しかし、今までと同じように万全の注意を払っていれば、先ほどの新幹線と同じように飛行機も無事故でやっていけるかもしれない。もしかすると、人間の作ったものは事故を起こすなんて世間一般で言われておりました。そういう考えはもう捨ててよいのではないかと。

### **事故ゼロ宣言**

私は JR の方に「事故ゼロ宣言してくれ」と申し上げました。これは単なる希望ではなく、覚悟を示してほしいと。安全に万全の注意を払えば、事故ゼロもないわけではないのかな

と思います。

現実には、アメリカでも安全性というものを考えて、小型原子炉というものを開発しています。何も大きいものがよいというわけではない、安全であれば小型のほうがよいという考え方もあるかもしれない。そうしますと、皆さんも考えてほしいのですが、例えば川内の原子力発電所を稼働すべきかどうか議論していますけれども、あの地域の人に対して、「十分に注意してやりますけれども、人間がやることですから、事故が起こる可能性があるのです」なんて言ったら、その地域の人には絶対にイエスと言わないですよ。「絶対に事故はありません、事故ゼロです」と言って、それなら受け入れを検討しようということになるのではないですか。少しでも事故の可能性があるということで、受け入れると思いますかね。

### 安全をシビアに考える

私は安全性についてももう少しシビアに考えて、それをまた納得させるような方法を考えるしかないのではないかと思います。新幹線でもそう、飛行機でもそう、人間の作った機械で事故ゼロというものはありうるのだと。それは運行に万全の注意を払うということが前提ですけれども、そういうことはできるのだと。こういう交通機関で「事故ゼロは可能」をPRしてほしいと思います。そのためには、まずJRが事故ゼロ宣言してほしいと思うのです。そうすれば、技術に対する信頼はぐんと増えてくるのではないのでしょうか。

そういうことを前提にして、想定外も含めて万々のことが起こったときには、「政府が万全を尽くします、政府が全責任を負います」そのぐらいのことを言わないとなかなか認めてくれないのではないかと思います。その地域の人々が原発を認可しなくても、日本全体では他にもたくさん原発があるわけですから、他の地域でやってくださいというような話になり、責任をみな押し付け合いながら、結局いつまでも結論が出てこない、そしてエネルギー不足もしくは高いエネルギーコストを払う、そんなことをしていたら、日本の国内で生産する工場はなくなってしまうのではないのでしょうか。そういうことを考えれば、何かそのぐらいのことをやっていかなければいけないのではないかと、また、その政府に信頼がなかったらダメなのですね。政府は信頼の持てることをやり、かつ説明していく、そういうことではないのでしょうか。そういう問題を突破していかない限りは、人口をむやみに増やすわけにはいかないと思います。

## 経済にふさわしい人口を

私は、アフリカのある国に行って、その国のリーダーの方とお話したら、自分の国は人口が少ないのです、どんどん増やします、中国を見てください、中国はあんなに人口が多くて大きな国じゃないですか、と言うのです。それはちょっと違うのではないですか、と議論になりましたけれども、矢張りそうではないと思います。やはりその国で人口を増やすのであれば、その国の人口を養うだけの経済を備えなければいけないと思います。

インドは私が心配している国の一つですが、人口を減らそうという特別な努力はしていると思います。いずれは都市化、高学歴化、人口減少ということが起こってくるかもしれませんが、人口がこんなに増えてしまったという話では遅すぎだということになりかねないですね。そういう国が、人口が増えただけ経済力もついてくればよいのです。そして生まれてきた子どもたちがより豊かな生活ができるという見通しがあればいいのです。その見通しなくして子供を増やしてはいけないということではないでしょうか。

アジア全体としては、しばらく人口が増えますが、もうそろそろ止まってくる、国によっては減ってくる、こういう状況になってくると思います。要するに、高齢化、アジアは歳をとっていくということです。先ほどは成長するアジアと申しましたが、同時に「歳をとりつつあるアジア」とも言えるのですね。

## 争いはマイナス

そのアジアの中で、全てお互いうまく協力し合ってやっつけていけるような状況であれば良いけれど、現在はご覧のとおり、例えば日本にとってお隣の中国や韓国とはいろいろとトラブルも起こしています。それが経済にも影響を及ぼしているという状況というのは、私が今まで申し上げているような「成長するアジア」という概念から外れるのです。そういうことで果たして良いのかどうか、そうことであればアジア全体に間違いなく悪い影響を及ぼす可能性があるのではないかと思います。

## 世界2、3位の経済大国

日本と中国とは、世界で第二位と第三位の経済大国なのですよね。そういうふうについてまで言われるかわかりませんが、中国と韓国と日本のGDPを足しますと、ほとんどアメリカのGDPと同じくらいということになります。そのくらいの力を持っていて、さらにそれが増えてきているということです。中国が間違いなく増えます。それに日本や

韓国が応援団になって、全体では三カ国でもっと増えて米国をいずれ追い越します。そういう地域なのですよね。ですから、そこでもって仲が悪くて、足を引っ張るようなことが起こるのであれば、そのマイナスの影響がアジアの他の国々にも悪い影響を与えてくる可能性があるということです。

### 資源輸出に留まらず

一方、アフリカは資源はあるが、それをうまく活用する方法をまだ知りません。そういう資源活用産業、資源を確保するとか、それを付加価値の高いものに作り上げていく、そういうことはインドネシアでは始まっています。モンゴルでも、これから一次資源を活用することをやっていかなければならないと思います。

アフリカはずいぶん時間がかかるだろうと思います。そういう中で、人口増がどんどん先にいったときに、社会の秩序が維持できるかどうかということも心配です。我々はいろいろな面で注意を払っていかなければなりません。あの地域は遠いから、我々から見ると地球の裏側だと言っているけれども、気候変動という観点からすると、同じ地球で同じ問題ですから、同じ程度に影響を受けると考えてもよいのです。こういうことにも、我々は十分注意していかなければなりません。先ほども申し上げたように、一次資源の輸出国というだけではない、一次資源をもらって日本で加工して製品にして売ったら儲かりますよ。しかしそういうことだけでは、将来のことを考えるとよいことではありません。その地域全体が伸びていくということを考えなければなりません。

### 資源に付加価値をつける

それと同時に、そういう一つ一つの国において、その国民がどう考えるかということに気をくばらなければいけません。資源をどんどん日本へ輸出するだけで、自分たちに恩恵が少ないと言われるようなやり方ではいけないでしょう。最終的に資源の輸出国も最終製品ができるようにならなければならないと思います。そこに至るまで、アジアの一員として我々も協力すべきです。例えば、アラビアの産油国は石油だけ売ってれば儲かります。その石油を地中から出てくる分を売ればよいというのが産油国であり一次資源供給国です。その石油を自分の国で付加価値を高めて世界に売っていかうということをアラビアの国も始めています。例えば、石油化学の原料となるエチレンをサウジアラビアでは相当な量を自国で生産しています。エチレンプラント、石油の分解プラントなどの設

備をこれは相当量を持っております。ですから、今まではエチレンプラントは日本の国内に持ち、石油を分解して国内で製品まで作るという工程でやっていましたが、今はエチレンを原料として輸入するという事になっている。要するに、エチレン分解までは産油国にお任せするという体制になりつつあります。産油国にも付加価値を持つチャンスはある意味で産油国の権利ですよね、我々は最終加工することに全力を挙げるといふ大きな流れの変化があります。原料を買えばよいというだけでない、そういう時代になったと思います。そういうことをすることによって、サウジアラビアに工業の芽が生まれるわけですよね。工業の芽を我々が育ててあげることしなければ、将来は石油化学の原料の輸入も石油化学の加工もできなくなる可能性があるというくらいに思って、協力してやっていかなければいけないのではないのでしょうか。

### 日本の役割

それでは将来、日本の仕事がなくなってしまうのではないかと言われますが、それはまた別のことを考えればよいわけです。日本は技術力をさらに高める必要があるのですね。今ほど技術力が求められることはないと思います。日本のため、環境のために、です。エネルギーは技術開発することによって、CO<sub>2</sub>を出さないエネルギー、それも比較的安く調達できることができなければ、大げさにいえば人類の将来はないのではないかと思います。アジアも世界も同じ問題なのです。問題を一緒に考えていくということが必要なのではないのでしょうか。

大使の皆さんも、日本にいらっしゃる間に、日本企業や学者の方と接触して、そういうことを自分の国でこれからいかに展開していくことができるかどうか、工夫してほしいと思います。そのことが国のためになるのだし、また逆にいえば日本のためにもなるのだと考えていただいて結構です。取り合いではありませんから。協力してより高い技術を開発して、より高い製品を作っていくのだと、そのことは環境問題にも適う問題だと考えてほしいと思います。

先ほど申し上げましたが、アジアは間違いなく発展する地域です。その次に申し上げたのは、そういう発展する地域も、だんだん歳をとってくるということです。ですから、あまりのんびりはできないのです。その前に、やることはやっておかなければならないということです。

## 揉め事の多いアジア

もう一つ申し上げたのは、アジアというのは、揉め事が多い地域だということです。その揉め事を深刻な揉め事にしない工夫が必要です。一例として申し上げれば、日中間、日韓間の問題があります。これは歴史的な問題でなかなか難しい問題です。しかし、歴史的な問題というと、つい過去を振り返って、あのときはどうだったというような議論になってしまいます。でも過去の話をついでしていてもきりがないことが多いのです。過去のことの方が良かった悪かった、という話をしていて、今何が起きているかということ、前進がないということですね。これは本当につまらない現象です。この状況は、一刻も早く解消しなければならないと思います。そしてそういうことはそういうこととして、前に向いて一歩でも進もうということをつまず考えるべきではないでしょうか。過去のことは静かに話し合っていけばよいのです。時間を多少かけてもよいではないですか。それよりも、前を向くこと、一歩踏み出すことは急ぐのです。でなければ、国際競争にも負けてしまし、他の国々にも迷惑をかけるのです。ですから、過去のことは然るべき人にお任せして、我々、特に政治のリーダーたちは前を向いてしっかりと歩いて行きましょう、という合意をすべきです。この合意がなければ前進がないと思いますし、国民も納得しないでしょう。

## 紛争地域の認識

私は今年の春、ヨーロッパに行ったのですが、ヨーロッパの政治家は日本、中国、韓国などの今の状況を見て、紛争地域だと言うのです。日本人は紛争地域だと思ったことはないでしょうが、遠いところにいる国の人はそう思っています。私はその後、ワシントンDCに行きましたが、ワシントンでは、いつ日本と中国が戦争するのですか、ということをつたり前のような顔をして言う人がいました。日本も中国も一人としてそんなことを考えている人はいないのですよと言ったら、怪訝な顔をしていました。ワシントンにあるシンクタンクというのは、先々を読むのですよ。例えば、尖閣諸島を中心に衝突が起こったら、日中はどのような対応をするか、そのときにアメリカはどうしたらよいか、日本はこうすべきではないか、と事細かに考えている、ありがたいところです。遠くのほうから見ていると、それくらいこの地域は深刻な地域なのです。

## 日本はどう見られているか

日本から発信する外国の通信社なども、当たり前のことは報道として送り返しません。そうではなくて、危機的なこと、悪いこと、とんでもないこと、そういうことを報道として送ることが多いのです。悪い報道、悪い状況の報告しか送られないのです。だから、いつ戦争するのかなと思われてもおかしくない。日本と中国が戦争することを他の人が真面目に考えているなんて話になったら、我々としては非常に悲しいですね。我々は平和国家を標榜して70年やってきましたが、外からそんなふうに見られている状況になっていることを恥としなければいけないと思います。

そういう意味でいえば、一刻も早くそうではない姿を世界に示さなければいけない。それはやはり首脳同士が会って、握手をするということではないでしょうか。それを一刻も早くしてもらいたい、というのは私どもが以前から思っていることですが、そうなるかどうかはわかりません。リーダー同士がどう考えるかということですから、私にも予想はつきません。今朝の新聞を見ますと、事務ベースでいろいろと話が進み始めていると聞いていますし、必ずや良い結果が出てくるのだろうと、そして世界中がおそらくほっとすると思います。

## アジア有っての日本

最近思っていることをあれこれ話をしましたが、いずれにしてもアジアと一緒にやっていく日本であるということ、アジアなくして日本もないと思っています。またアジアがあつて、日中関係もうまくいくようになると思います。アジアあつて、アメリカとの関係も日本はうまくいくだろうと思います。アジアを失うことは、日本の信を失うことだと思います。ぜひアジア諸国の皆さんとこれからも長いお付き合いをお願いしたいということを最後に申し上げまして、ご挨拶に代えさせていただきます。どうもありがとうございました。

(了)